



第 12 回  
あす  
外国語教育の未来を拓く  
～ことばの価値に気づくための外国語教育～

【午前の部】

◆分科会◆

研究発表 複言語・多言語教育の取り組み

【午後の部】

◆基調講演◆

「日本型複言語教育の提案 – 母語教育と外国語教育の一体化 –」  
大津 由紀雄(慶應義塾大学名誉教授)

◆調査報告◆

「日本の高等学校等（高専含む）における  
英語以外の外国語科目の開設状況に関する調査の報告」

◆次世代の報告◆

「多様な外国語を学ぶ高校生の声」  
#〇〇語 #キテる #2024

日 時：2024年3月10日（日）10：00～17：15

会 場：上智大学四谷キャンパス 6号館

<https://dept.sophia.ac.jp/is/solific/>

一部ハイフレックス（Zoom）で実施（予定）

主 催：一般社団法人日本外国語教育推進機構（JACTFL）  
上智大学国際言語情報研究所（SOLIFIC）



## 🌀 実施概要

### 開催趣旨：

本シンポジウムは、さまざまな外国語教育の関係者が一堂に会し、日本の外国語教育の未来を拓くための具体策を練り、それを実現するための機会としています。2013年の第1回シンポジウムから「外国語教育の未来を拓く」という共通テーマを掲げ、JACTFLとSOLFICが主催組織として、毎年3月に上智大学で継続的に行ってきました。

本シンポジウムにおいて、私たちは、日本における多言語・複言語教育の未来を拓くための具体策を練り、意見交換する場を提供するとともに、多言語・複言語教育を推進していくために、小中高大の外国語教育者・研究者や外国語教育施策に関わるステークホルダーらがそれぞれの研究知や実践知を発信する機会をつくってきました。

JACTFLは、これまで日本の外国語教育施策に係る文部科学省や東京都教育庁などの上層部に対して、日本社会において多様な外国語教育を推進するための建設的な提案を組織的に粘り強く行ってきました。またJACTFLは、10年以上に及ぶ地道な活動によって、長く続いた言語種と教育段階の厚い壁を打ち破り、あらゆる言語種、あらゆる教育段階、あらゆる言語形態などを直接つなげました。その結果、異なる背景を持つ関係者同士がアイデアを出し合い協働するという、従来存在しなかった外国語教育者間のネットワークの構築を実現しました。

今回の第12回シンポジウムは、「ことばの価値に気づくための外国語教育」という副題を用意し、これからの10年、20年を見据え、日本社会が切り拓いていく外国語教育の未来、ひいては日本と世界が共創する外国語教育の未来を考える機会にしたいと思います。

## 🌀 実施体制

特別協力：一般財団法人日本私学教育研究所、公益財団法人国際文化フォーラム

後援：文部科学省、外務省、東京都教育委員会

参加者：幼小中高大の外国語教育・国際理解教育・異文化間コミュニケーション等の教育関係者、教育行政機関関係者、学校の管理職、企業関係者ほか150-200名

参加費用：JACTFL会員/無料、一般/1000円（会場整理費）

## 🌀 プログラム

9 : 30 ~ 受付開始

**【第1部】 対面及びオンライン（Zoom）で実施 410、409、408 教室**

**Zoom URL: 事前にメールにて参加者に通知します**

◇10 : 00 ~ 12 : 00

### 研究発表「複言語・多言語教育の取り組み」

#### ◆分科会 1 小学校・中学校

司会進行：北川 郁子（一般財団法人日本エスぺラント協会）

- 10:00～ 「「言語博物館」を概念とした寺子屋式複言語教育の可能性  
—小学生向けの言語への目覚め活動の実践研究—」  
クロス ルベン（琉球大学）（オンライン発表）
- 10:30～ 「小学校向け複言語学習—大規模校での取り組みの成果と課題—」  
岩居 弘樹（大阪大学）  
大前 智美（大阪大学）
- 11:00～ 「小学校における「ことばの教育」—ことばがことばの未来を創る—」  
渡辺 香代子（埼玉県幸手市立上高野小学校）
- 11:30～ 「国際理解を目指した学習における、  
教師の経験を活かした授業の効果に関する—考察」  
磯本 崇仁（東京学芸大学大学院）

#### ◆分科会 2 高等学校・大学 1

司会進行：大森 洋子（明治学院大学）

- 10:00～ 「翻訳における学生たちの葛藤  
—三大学連携防災紙芝居多言語化プロジェクトを例に—」  
植村 麻紀子（神田外語大学）  
中川 正臣（城西国際大学）  
澤邊 裕子（東北大学）
- 10:30～ 「国際共修型多文化クラスにおける平等な参加を目指す言語アプローチ  
—やさしい日本語、複言語資源の活用—」  
山田 悦子（北海道大学）
- 11:00～ 「料理レシピを通じた複言語・複文化教育  
—「レシピのチュルク諸語」での実践報告—」  
日高 晋介（日本学術振興会/新潟大学）

◆分科会 3 高等学校・大学 2

司会進行：能登 慶和（獨協医科大学）

10:00～ 「プロジェクト型授業での複言語・複文化教育の試み  
ードイツクリスマスマーケット in 都筑 2023 への参加を通してー」  
松木 瑶子（桐蔭横浜大学）

10:30～ 「大学における課外活動としてのタンデム学習の実践」  
西坂 祥平（お茶の水女子大学）

11:00～ 「「高校スペイン語教師の会」設立に向けて」  
遠藤 杏（慶應義塾大学大学院後期博士課程）  
各務 恭子（兵庫県立国際高等学校ほか）  
高野 正之（奈良県立国際高等学校）  
寺尾 美登里（関西学院大学ほか）  
日比野 規生（神奈川県立深沢高等学校）  
廣瀬 瞳（上智大学大学院博士後期課程）

◇休憩 12:00～13:00

## 【第2部】 410 教室

◇13:00～15:00

### 開会・挨拶

山崎 吉朗（JACTFL 理事長/日本私学教育研究所特任研究員）

岡田 隆（上智大学 学術研究担当副学長）

浅原 寛子（文部科学省初等中等教育局教育課程課外国語教育推進室長）

司会進行：郷司 雅子（埼玉県立坂戸高等学校）

◇13:30～15:00 対面で実施

**基調講演** 大津 由紀雄（慶應義塾大学名誉教授）

「日本型複言語教育の提案 – 母語教育と外国語教育の一体化 –」

司会進行：神谷 善弘（大阪学院大学）

講演者紹介：山崎 吉朗（JACTFL 理事長/日本私学教育研究所特任研究員）

欧州由来の複言語・複文化主義（以下、「複言語主義」）を言語・文化土壌が異なる日本で採用するためには複言語主義の本質を慎重に検討し、それを日本の言語・文化土壌に適合した形にする必要がある。この講演では、欧州由来の複言語主義が CEFR を介して主として日本の英語教育界の一部を主たる窓口として受容されたことによって、複言語主義が歪められた形で定着してしまったことを指摘する。同時に、欧州由来の複言語主義も複数の個別言語を何を基盤として有機的に関連づけるかについて十分な検討がなされていないことを論じる。これらの分析をもとに、日本型複言語主義の開発が必要であることを示し、その出発点として母語教育（「国語」教育）と外国語教育の一体化を図ることを主張する。

**【第3部】 410 教室**

◇15:05～15:45

**調査報告 日本の高等学校等（高専含む）における英語以外の外国語科目の開設状況に関する調査の報告**

司会進行：臼山 利信（筑波大学）

JACTFL が設立趣旨の重要な柱とする、高等学校における複言語主義にもとづく外国語教育の拡充には、まず現状の把握が必須である。現時点では、そのほぼ唯一の手立てが、文科省によって隔年で行われる調査「高等学校等における国際交流等の状況について」の中から、「8 高等学校等における英語以外の外国語科目の開設状況について」を参照することであるが、調査項目が概形的なものにとどまり、また実施校名が公表されないなどの限界がある。そうした中で、「高校での多言語教育実施状況調査」（岩崎 2020）を契機に、JACTFL 内で独自調査実施の機運が高まり、2022 年以降専門チームにより、これを行うことになった。今調査は、客観性、統一性を担保するために、各校 Web サイト上で確認しうる教育課程表などの資料を根拠とした。本発表は、そこで得られた成果や今後の課題などについて検討を行う。

池谷尚美（横浜市立みなと総合高等学校）

岩崎和彦（長崎大学大学院博士前期課程）

臼山利信（筑波大学）

神谷善弘（大阪学院大学）

野澤督（大東文化大学）

能登慶和（獨協医科大学）

廣瀬瞳（上智大学大学院博士後期課程）

山下一夫（慶應義塾大学）

山下誠（神奈川県立厚木商業高等学校）

山崎 吉朗（JACTFL 理事長/日本私学教育研究所特任研究員）

## 【第4部】 410 教室

◇15:55～16:55

### 多様な外国語を学ぶ高校生の声 #〇〇語 #キテル #2024

司会進行：黒澤 眞爾（関東国際高等学校）

蛭原 帆奈海（関東国際高等学校）

富山 真裕美（神奈川県立平塚湘風高等学校）

#### ◆主旨説明

黒澤 眞爾（関東国際高等学校）

JACTFLは設立当初より、中等教育、特に高校における多様な外国語教育の普及・推進を活動目的としてきた。その間、主に教育制度の問題に焦点を当て、会員の様々な研究を紹介してきたが、直接、学習者である高校生の意見や要望に耳を傾ける機会は乏しかったと言える。

そこで、今回、JACTFLとして初めて、シンポジウムの会場で高校生の声を直接聞く機会を設けてみた。フランス語、ドイツ語、ロシア語、スペイン語、中国語、韓国語を学ぶ高校生たちが、同じ年代の高校生に向けて、彼らの思いが込められたメッセージを伝える。

英語以外の言語を自ら選択して学んでいる高校生の率直な声は、今後のJACTFLの活動のみならず外国語教育の在り方に大きなヒントを与えてくれるであろう。

#### ◆発表

韓国語	神奈川県立平塚湘風高等学校 東京都立三鷹中等教育学校
ロシア語	関東国際高等学校 早稲田大学高等学院
フランス語	大妻中野中学校・高等学校 東京都立北園高等学校
中国語	関東国際高等学校 横浜市立みなと総合高等学校
ドイツ語	東京都立北園高等学校 獨協中学校・獨協高等学校
スペイン語	神奈川県立藤沢総合高等学校 埼玉県立坂戸高等学校

◇16:55~17:15

**閉会・挨拶**

山崎 吉朗 (JACTFL 理事長/日本私学教育研究所特任研究員)

司会進行: 郷司 雅子 (埼玉県立坂戸高等学校)